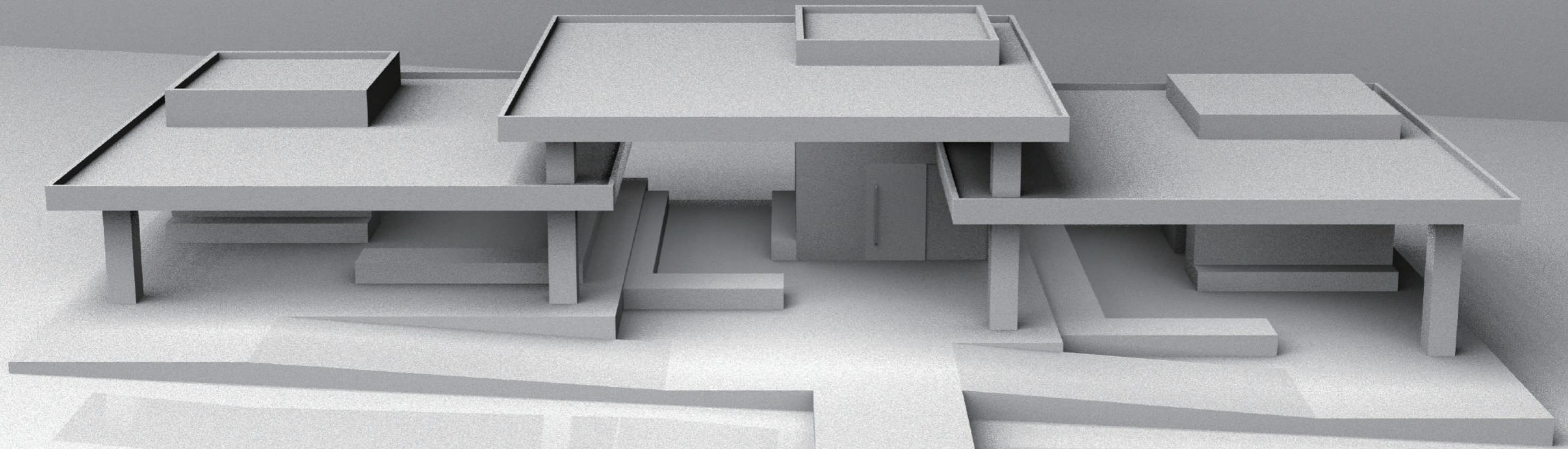


自然に活かされる空間



沖縄の強い日差しが降り注ぐこの場所に屋根をかけた建築
そこには、影が生まれ、風が吹き抜け、柔らかい光が包み込む

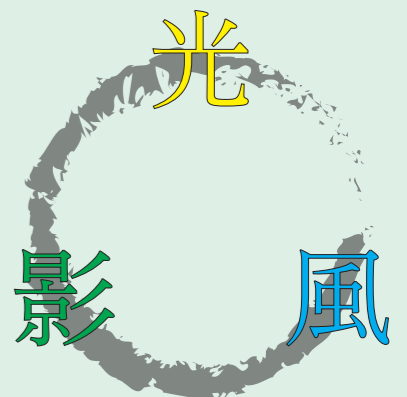


計画敷地

◀ 計画地である中城公園は、広大な芝生の広場やそこを囲むように生い茂っている木々といったような自然に囲まれた緑地公園である。しかし、日影となる場所が極端に少なく来訪者は、沖縄の強い日差しを鬱陶しく思うだろう。そこで、この場所に来訪者に沖縄の自然をポジティブに感じてもらえるような休憩所付きのトイレを計画していこうと思う。

設計趣旨

沖縄の豊かな自然の中から、「光」・「影」・「風」という要素をピックアップした。その環境要素と人々の間を取り持つ空間として休憩所付きトイレを計画する。強い日差しの緩衝帯、炎天下の中に設けられた日影空間、目には見えない風の抜けを体感できる空間。これらの環境要素が存在し干渉してくるからこそ、この建築物の空間は相対的に現れる。



光 : 夏の沖縄の日差しはとても強く痛い。そこで、直接日光を取り入れるのではなく、陸屋根を重ねてライトシェルフの機能を付加させることで、程よい日光を取り入れることができる。

影 : 屋根をかけることで日影を作り、来訪者が集う空間を生み出す。また、影の濃淡により同じ屋根の下にいくつかの異なる明暗の空間が生み出され、来訪者それぞれの空間が作り出される。

風 : 湿度の高い沖縄では、風の抜けは重要な要素である。壁はトイレの個室だけで最小限にして平面的に隙間を作り、傾斜を利用したボリューム操作により断面的な風の抜けも計画した。

